

# 日本語のディスクレイマーが話し手の印象に与える影響

## —否定型と肯定型を比較して—

酒井拓人（愛知学院大学大学院生）

### ディスクレイマーとは

- 「意図された行為の結果として生じる疑いやネガティブな類型化を、前もって避けたり覆したりするために使われる言語的方略」（Hewitt & Stokes, 1975）
  - たとえば以下のような前置き表現のことを指す
    - 「別に怠けてるわけではないんだけど、...（怠惰な発言）。」
    - 「変な風に聞こえるのはわかってるんだけど、...（変な発言）。」

### 話し手の意図

- 主張をこのまま発言してしまうと、聞き手からネガティブな評価を受けるかもしれないと予想
  - ⇒ルールや規範、会話の流れを理解していて、それらから逸脱する意図はないことをディスクレイマーで表現
    - ⇒聞き手からのネガティブな評価を避ける

### ディスクレイマーは逆効果...?

- @英語圏：ディスクレイマーを用いるとかえってネガティブな印象が強まる可能性が示唆されている（e.g., El-Alayli et al., 2008; Riard & Jory, 2011）
- 酒井 (2019) : ディスクレイマー@日本語は、話し手の印象をよりネガティブにする場合もあればポジティブにする場合もあった

### 本研究の目的...否定型vs肯定型

- ディスクレイマー@日本語は効果が一貫していない
  - ⇒形式の違いが影響しているのでは？
    - 否定型：「～ではないんだけど」⇒発言のネガティブ側面を否定
    - 肯定型：「～なのはわかっているんだけど」⇒発言のネガティブ側面を肯定
- 肯定型は自己の否定的側面を認めている⇒日本で望ましいとされている「自己卑下呈示」とみなせる
  - ⇒肯定型を使うと、印象がポジティブになるのでは？

- 大学生306名（男性178名、女性128名、平均年齢19.95歳、SD=4.34）を対象に質問紙実験を実施
- 架空の会話を3つ呈示し、各会話中のディスクレイマーの形式（なし=統制群vs否定型vs肯定型）を操作
- 会話を読んだ後、会話をイメージできたか（スクリーニング項目）、話し手の言い方の印象、話し手に対する総合評価を問う項目に回答を求めた

### 会話①

- 話し手の言い方の印象、総合評価ともに有意差なし
  - ただし、対応項目「得意そう—得意そうでない」で小さな効果あり（否定型<肯定型<統制群）

### 会話②

- 対応項目「生意気である—生意気でない」で有意差、小さな効果あり
- 共通項目「感じの悪い—感じのよい」で有意傾向差、小さな効果あり
  - ともに、否定型<統制群が有意、有意でなかったが肯定型<統制群

### 会話③

- 対応項目「やる気のある—やる気のない」で有意差、小さな効果あり
  - 肯定型<否定型・肯定型が有意
- 共通項目「不適切な—適切な」で有意差、小さな効果あり
  - 統制群<否定型が有意
- 共通項目「感じの悪い—感じのよい」、総合評価「嫌い—好き」で小さな効果あり（肯定型<統制群・否定型）

✓ 効果が一貫していない⇒肯定型を使ったからといって、必ずしも話し手の印象がポジティブになるというわけではない

✓ 日本 = 高コンテクスト文化  
⇒実際の言葉より、共有知識や文脈を考慮しやすい  
⇒人物評価はディスクレイマーの有無や形式に左右されない？

✓ そもそもディスクレイマー1つ程度では、話し手の印象を左右するほどの影響力がない？（e.g., Bell et al., 1984）  
⇒会話の中でディスクレイマーの数を調整するなど、操作を工夫して比較検討する必要性あり